



VIVID - STILL

1.14 - 2.4

COHJU contemporary art

2017
MIO YAMATO
<http://mioyamato.com>

1.6 - 1.22

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

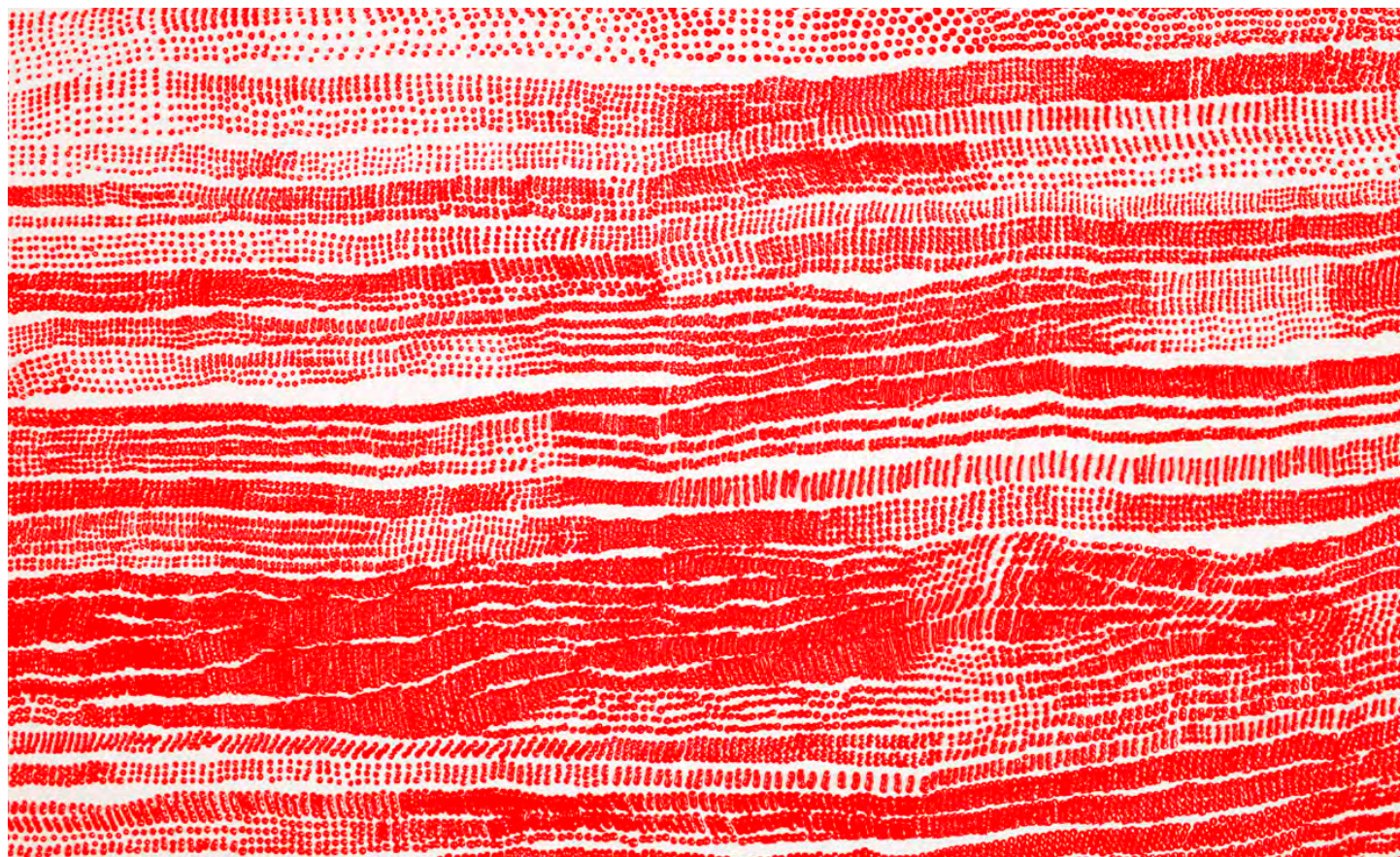


静か。鮮烈で —

VIVID-STILL: 静か。鮮烈で__

大和美緒 個展

2017年1月6日(金) — 22日(日) 11時~19時 金曜日のみ20時まで 月曜日休廊



【展覧画像01】《REPETITION RED (dot) 1.5》部分

2015

油絵具 キャンバス

1000 mm x 1000 mm

Gallery PARC[グランマール ギャラリー・パルク]では、2017年のスタートにあたる展覧会として、1月6日(金)から22日(日)まで、「大和美緒 個展[VIVID-STILL: 静か。鮮烈で__]」を開催いたします。

2015年に京都造形芸術大学大学院を修了した大和美緒(やまと・みお/ 滋賀・1990~)は、これまでおもに写真・絵画・彫刻・インスタレーションによる作品展開に取り組んでいます。大和は2014年1月にGallery PARCで開催した初個展「aspect of LUMINOUS RED」において、2週間以上の会場制作によりギャラリーの5面もの大きなガラス窓を用いて、そこに『るんるん』や『どきどき』といった短い言葉を書き連ね、その集積により大きな図像を描き現わす大型のインスタレーションを発表しています。これらは身の回りに溢れる大量の情報(言葉や図像)に浸る中でマイクロに埋没してしまいそうな「私」という感覚を、その情報をマクロに再構築するプロセスに身体によって関わり、目の前に新たなイメージの世界を出現させることで、「私」の存在を確認したいという欲求に端を発したものであったといえます。

以降、大和は制作のプロセスに積極的に身体(私)を用いながらも、そこに完成した画面・空間において、私(大和)を含む大きな自然のシステムの姿を見ようとするかのような作品を展開させています。たとえば、『大きなキャンバスに点をひとつ打つ。次の点をその隣に打つ』『一本の線を引く。次の線をその隣に引く』『一筆書きの星を描く。それぞれの頂点が接するように周囲に同じく星を描く』。これらシンプルなルールによる機械的な作業は、大和の身体によって繰り返されることで、一つひとつのわずかな歪みが連鎖し、いつしか画面上には「絶え間の無い揺らぎ」の波形が現れます。

画面上の無数の点は大和の行為の記録であり、そこには身体のままならなさを見ることができます。また、一瞬の大和の思考や判断によって個性を与えられた一つひとつの点の連なりは線となって、陽の光や周囲の湿度、環境の影響を受けながら伸びる植物や、その歴史が年輪として現れた板の木目のようなイメージを現します。また、それらは面となって、そこに山の稜線や波のカタチといった揺らぐ世界の姿を垣間見することもできます。

こうしたプロセスによる制作について大和は「考えや想像のもとに、描きたいカタチに目を奪われるのではなく、目の前を見て、考えて、体を動かすというシンプルなことに集中したい。例えば苔が水と渴きを感じ取り、判断し、考えながら生きるように、点や線や絵が互いに感じて・考えて、一瞬の判断を行なうことで成すカタチに興味があるし、そうしたことを体験したい。」と話します。

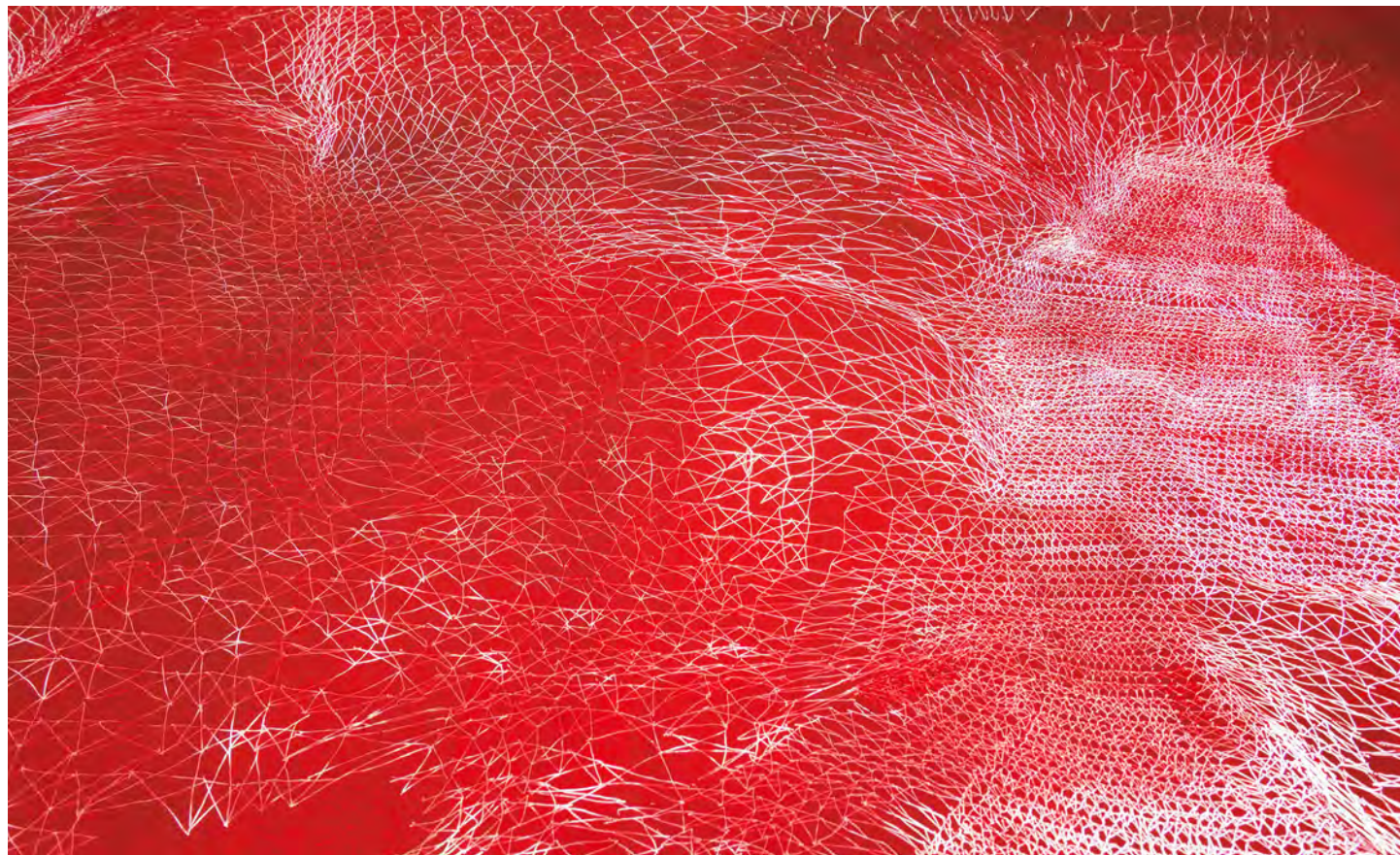
本展では12月末からの会場制作によりギャラリー空間のガラス面を支持体として制作した「点」による作品《REPETITION RED (dot)》や、「星」による《REPETITION RED (star)》のほか、「線」による《REPETITION BLACK (line)》を発表します。また、ガラス板に染料インクを垂らして現れる様相を手がかりに描かれた作品《ORCHIDS》のシリーズも複数展示いたします。

また、本展はCOHJU contemporary artとの2会場同時開催として、各会場で異なる内容の展示を行います。両会場は徒歩で移動が可能です。ぜひ合わせてご高覧いただき、その魅力をより強く感じていただければ幸いです。

VIVID-STILL: 静か。鮮烈で__

大和美緒個展

2017年1月6日(金) — 22日(日) 11時~19時 金曜日のみ20時まで 月曜日休廊



【広報画像02】《REPETITION LUMINOUS RED (star)》 2015 フォトリソグラフィ、ガラス、太陽の光

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 大和美緒個展 VIVID-STILL: 静か。鮮烈で__

出展作家 大和美緒 <http://mioyamato.com>

会期 2017年1月6日[金] — 1月22日[日] 11:00~19:00
月曜日休廊・金曜日20:00まで

料金 無料

内容 【インスタレーション】

2015年に京都造形芸術大学大学院を修了した大和美緒(やまと・みお/滋賀・1990~)による2回目の個展。シンプルなルールに基づいて描かれた無数の点により、有機的なイメージを描き出す《REPETITION》のシリーズをギャラリー空間に展開して構成する大型インスタレーション。ギャラリー内部の大きな窓ガラスを3面用いた新作や、併設されるグランマーブル店舗内のウィンドーを用いたインスタレーションを発表。加えて130×260cmのパネル作品や、ガラス板に染料インクを用いた作品などをあわせて展示します。本展は丸太町通寺町・COHJU contemporary art(<http://www.cohju.com>)との2会場同時開催として、各会場で異なる内容の展示を行います。

会場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル

アクセス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマーブル]店舗内2階

問い合わせ Gallery PARC (正木・武本・村田) 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマーブル] 2F
【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com

VIVID-STILL: 静か。鮮烈で

大和美緒 個展

2017年1月6日(金) — 22日(日) 11時~19時 金曜日のみ20時まで 月曜日休廊

展示予作品イメージ

右上【広報画像03】

《REPETITION RED (dot) 01》部分

右中【広報画像04】

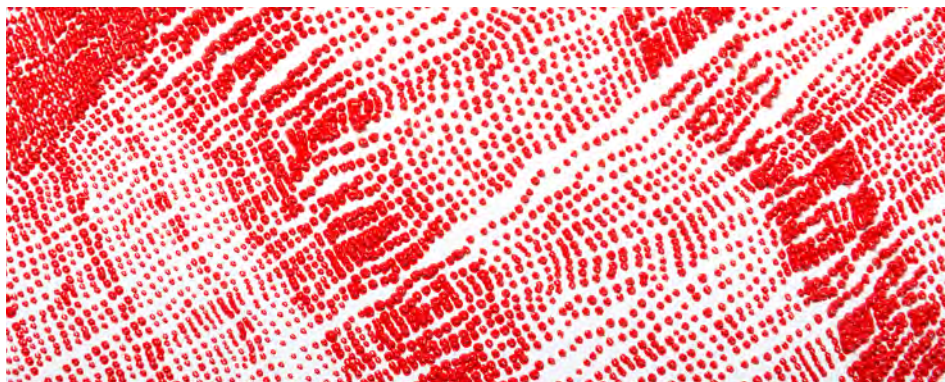
《REPETITION RED (dot) 01》

1818 mm x 2273 mm 2014 油絵具、キャンバス

右下【広報画像05】

過去展示風景

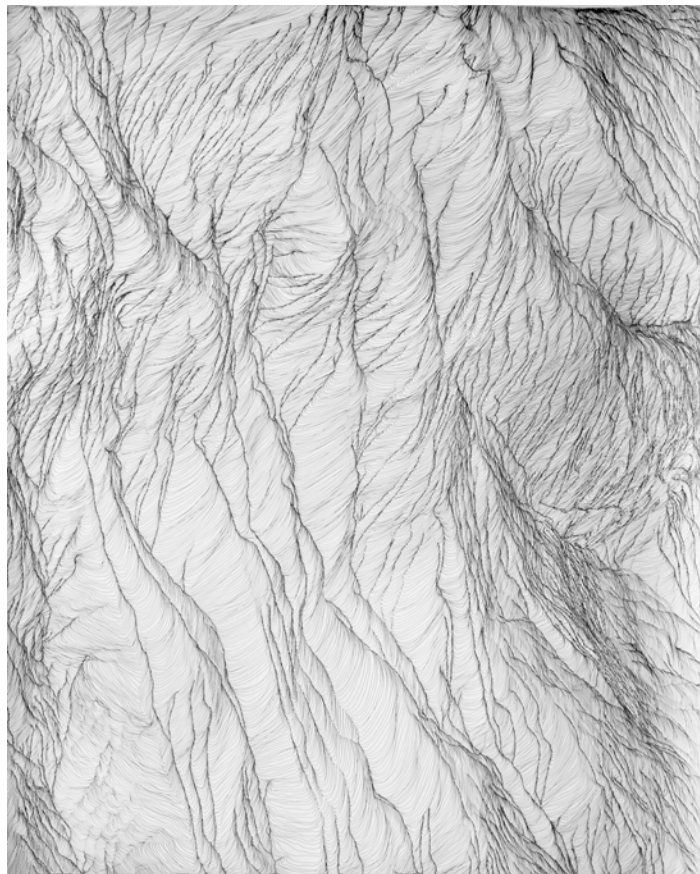
「WEEKEND 2 - コシノヒロコ × 大和美緒 -」
(KHギャラリー 芦屋, 兵庫・2015年)



VIVID-STILL: 静か。鮮烈で

大和美緒 個展

2017年1月6日(金) — 22日(日) 11時~19時 金曜日のみ20時まで 月曜日休廊



【広報画像06-07】

《REPETITION BLACK (line) 02-03》部分

1330 mm x 2600 mm 2016 鉛筆、紙



【広報画像08】

《ORCHIDS》過去展示風景

2016 染料インク、ガラス、植物



【広報画像09】

《ORCHIDS》部分

VIVID-STILL: 静か。鮮烈で

大和美緒 個展

2017年1月6日(金) — 22日(日) 11時~19時 金曜日のみ20時まで 月曜日休廊

大和美緒

CV

1990年、滋賀県生まれ

2015年、京都造形芸術大学 大学院 総合造形領域 修了

[個展]

2014

- aspect of LUMINOUS RED (Gallery PARC, 京都)

[グループ展]

2016

- CAF 賞選抜展 (HOTEL ANTEROOM KYOTO, 京都)

2015

- WEEKEND 2 - コシノヒロコ × 大和美緒 - (KHギャラリー 芦屋, 兵庫)

- 混沌から躍り出る星たち 2015 (スパイラルガーデン 青山, 東京)

- ART AWARD tokyo marunouchi 2015 (丸ビル1F マルキューブアトリウム, 東京)

- CAF ART AWARD 2015 (3331arts chiyoda, 東京)

- ULTRA × ANTEROOM 2015 (HOTEL ANTEROOM Gallery 9.5, 京都)

- 京都造形芸術大学 修了展 (京都造形芸術大学, 京都)

2014

- SPRUT 2013 (京都造形芸術大学 gallery Aube, 京都)

2013

- Ultra Award 2013 (ART ZONE, 京都)

- キテ、ミテ中之島 ミテ キテ ミュージアム 2013 (京阪電鉄中之島駅, 大阪)

- Art Award Tokyo Marunouchi 2013 (行幸地下ギャラリー, 東京)

- 持ち腐れだと、誰が言った。(つくるビル, 京都)

- [Con] Temporary Commune (Gallery PARC, 京都)

- 京都造形芸術大学 卒業展 (京都造形芸術大学, 京都)

- キネキテル (Antenna Media, 京都)

- [宙] をただよう思考展 (ART ZONE, 京都)

- 京都造形芸術大学 総合造形ゼミ4回生展 (京都造形芸術大学, 京都)

[受賞歴]

2015

- CAF 賞 2015 山口裕美賞

- Art Award Tokyo Marunouchi 2015 小山登美夫賞

- 京都造形芸術大学修了展 優秀賞

2013

- Ultra Award 2013 オーディエンス賞

- Art Award Tokyo Marunouchi 2013 高橋明也賞

[フェア]

2016

- Art Stage Jakarta (シエラトン グランド ジャカルタ ガンダリア シティホテル, インドネシア)

- HOTEL ANTEROOM KYOTO 365日アートフェア (258号室) (HOTEL ANTEROOM KYOTO, 京都)

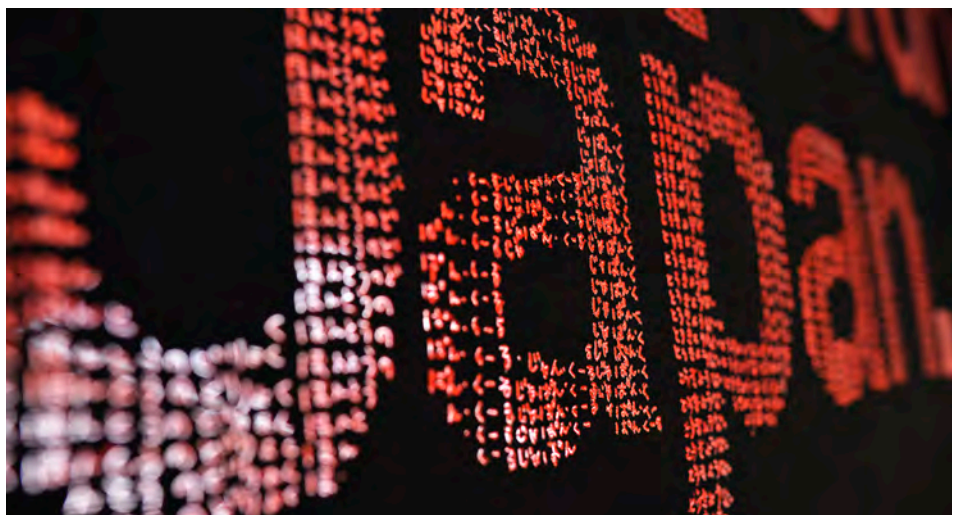
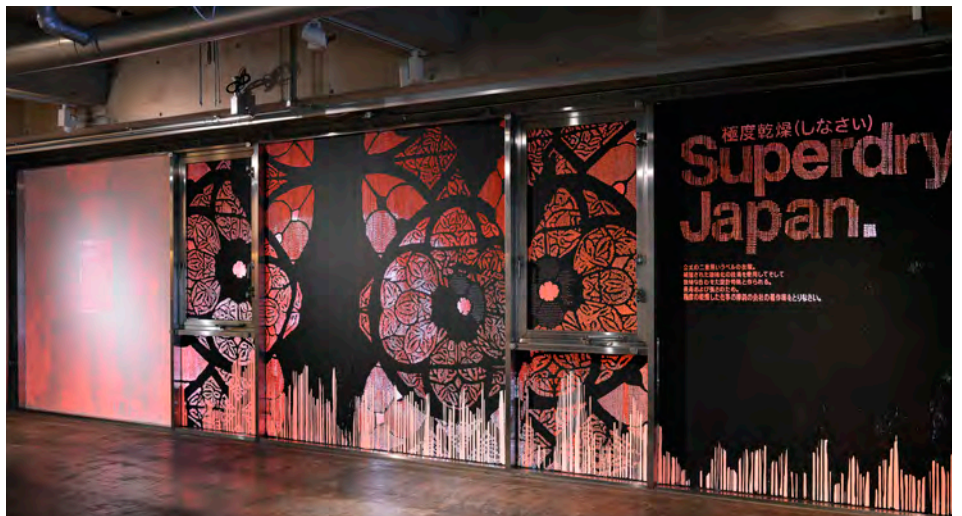
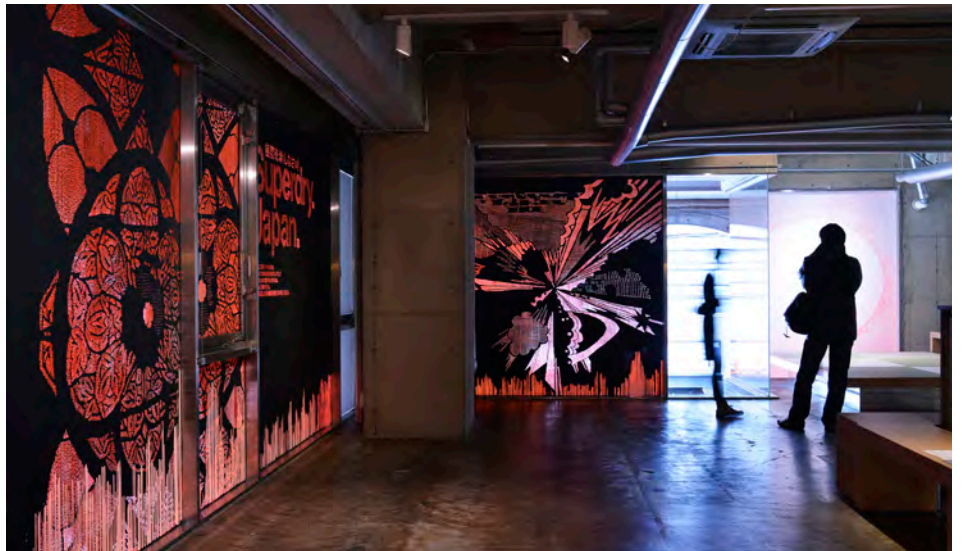
- ART STAGE SINGAPORE 2016 (マリーナ ベイ サンズ, シンガポール)

- LONDON'S GLOBAL ART FAIR (オリンピック, イギリス)

2015

- SYDNEY CONTEMPORARY (キャリッジワークス, オーストラリア)

- 超京都 art kyoto 2015 (ちおん舎/京都文化博物館, 京都)



【広報画像10】 aspect of LUMINOUS RED (Gallery PARC, 京都) 会場風景

VIVID-STILL: 静か。鮮烈で

大和美緒 個展

2017年1月6日(金) — 22日(日) 11時~19時 金曜日のみ20時まで 月曜日休廊

制作メモ



12月22日

言葉にすることは一旦保留する。
作家として言葉で伝えようとしんないのは無責任だと思う。だけれども、それも承知して、私は黙ってつくる。
まずは作品で全てを語る。
私の世界は全て、作品から始まってゆく。そういう摂理。

言葉にする時間なんてない。
言葉にする事で、何がさっぱり冷めてしまう、なんて事はみんな無いのだろうか？
私はしょっちゅうある。
熱いものは熱いままに。

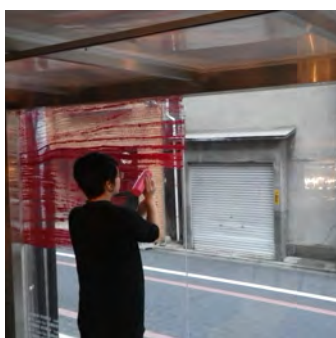
「言葉に出来ないから、(それは)無かった」ということにはならないだろう。
見えないチカラを感じることは誰にでもできる。

“人間らしく居ること”を全面的に認めたい。そうでもしないと到底、生き抜くことが困難だから。

どんな状況であっても、
まずは生きなければならないから。
この時代に、強く、真剣に、生きなければならないから。
そう、みんな、生きている事を実感したい。
わたしもそう。

ぼおっとしていっていると、うっかり虚しさに飲み込まれてしまうから、そうならないように。

これは違う話だけれど、“恥ずかしい”という感情は、忘れない方がよい。
これは品性の話。



12月23日

一事が万事
一事をもって万端を知る

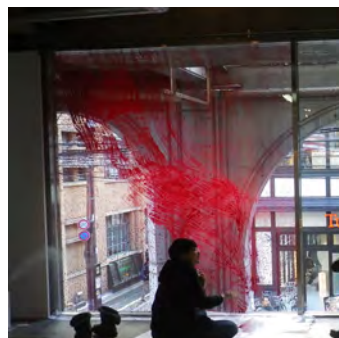
この世界で最も小さなものと
この世界で最も大きなものは同一である

全は一、一は全
狛犬の口 「あ」「うん」
五十音の最初と最後のあ～ん
始まりと終わりが結びつく神聖な領域
「あ」が世界のはじまりを表し
「うん」世界の終わりを表す

赤と青
赤と緑

折りのかたち

あと、健全な精神は健全な肉体から。
1日3食8時間睡眠!



12月24日

どんなに時間が無くても、決して焦って完成させてはいけぬ。
上手く立ち回れる時もあるかもしれないが、きつと後悔するだろう。

じっくりと感じ、考える。
これが醍醐味。

既に答えがあるような作品を作ってはいけぬ。
予定調和な結末は必要でない。

退屈な作品をつくらぬ。
情性で作品をつくらぬ。

誰にも答えを教えてもらえない時は、自分で考えるチャンス

混沌とたたかう事を恐れてはいけぬ。
逃げない。立ち向かう。
作品を簡単に仕上げることは、即ち逃げ。

作品は時に、戦いの痕跡
作品は時に、ただの生きた証

絵を描く時は、背中にある宇宙の力を感じて描く
by中西夏之さん

12月25日

メリークリスマス!
今晚はキムラにすき焼き行って来ます(肉)
作品の映像的体験

12月26日

言葉を越えてゆく
イメージを越えてゆく

絵を描いている時間は、自分を信じる事ができる時間



12月27日

自然に、作品が育ちたいように。

私が決めることは少しだけ。
あとは作品が自分で考える。

行為と音に没入してゆく。
とんとんとん、とんとんとん、とんとんとんとんとん…

ずっと描いていると、作品と自分の境界がだんだんとなくなっていって、自分の感覚が作品に溶けていくような気がする。



12月28日

感情を糧に絵を描ききる事は難しい。
なぜなら突然湧いた感情は、思いがけずぐに変わってしまうから。

描いていると途中で気が済んでしまうから。

感情や気分の変化の表面的な部分には振り回されない方がいい。もっと根本的なことを。
強烈なものを。

まずは素材の観察、対話。
じっくり眺めて特徴をつかむ。

空間も観察、身体をめいっぱい使って空間を把握する。
それぞれの空間に持ち味があるから、それ

を生かした形で作品と共存させるのが楽しい。

作品を作ることと手紙を書くことは似ている。1対1のコミュニケーション。

わたしが作りたいのはやっぱりイメージではない。絵画的に考えない。

"存在"そのもの。もしくは"時間"そのもの、もしくは"身体の動き"そのもの。これは彫刻的思考というもの?

まあでも絵画的でも彫刻的でも本当はどちらでもよくて、大切なことはもっと遠くにある(それは何だろうか…)

12月29日

大学での名和さんの言葉で今でも大切にしていることは

「いい作品は独り歩きする。全力でいい作品を作って、あとは作品の力を信じたい。」

っていうのと、

「大和が、呼吸するようにできる作品を作ればいい」

この2つ。

12月30日

自然の力を感じて、体現すること。太極拳に近い?

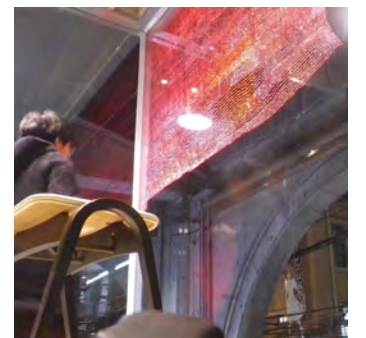
自然の力を体現することで
ちいさな自分自身が消えてゆくことが心地よい。
本当に大切にしなければならぬ"わたし"はどの部分なのかを考えさせてくれる

近江商人の三方よし
「売り手よし、買い手よし、世間よし」

売り手と買い手が満足し、さらには社会貢献できるのが良い商売。
この心得を大事にせよという言葉。

私はお商売をしているわけではないけれど、これは制作活動に置き換えることができる。

「わたしよし、あなたよし、世界よし」



12月31日

まずは人として普通に生きたい。
そしていい作品ができれば、それでいい